

“

”

# パケット

コンピュータ通信において、小さく分割された通信データのひとかたまりのことで、小包(packet)という意味からこう呼びます。

ネットワーク上を大きなデータが分割されずに流れてしまうと、そのデータのみで回線が占有されてしまい、他の機器が一切通信できないという問題が生じます。そのため通信データをパケットという単位に小さく分割して、回線を共有できるようにしているのです。このようにデータをパケットに分割して送受信する通信のことをパケット通信と呼んでいます。

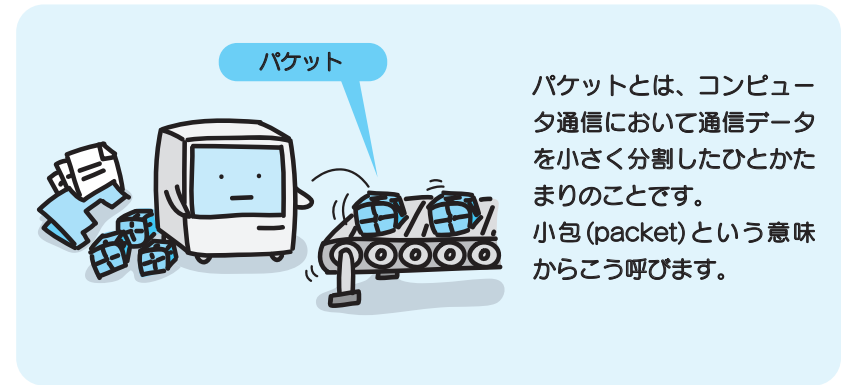
パケットには必ず送信元や送信先のアドレスといった属性情報が付加されています。この情報は小包に貼り付ける荷札のようなものであり、この荷札をもとにパケットはネットワーク上を正しい宛先へと運ばれていくのです。

パケットに付加される情報には、そのパケットが使用するネットワークプロトコルに関する記載されています。これにより、同一のネットワーク回線上でも複数のネットワークプロトコルが混在して利用することができるのです。

お客さま(アプリケーション)が運びたい荷物(通信データ)を小さな小包(パケット)に分割し、小包には紛失しないよう荷札をつける。この時、荷札にはその小包の配送を担当する業者(ネットワークプロトコル)指定のものを利用する。そんなイメージを想像するとわかりやすいでしょう。

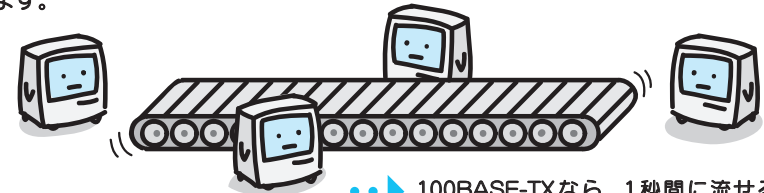
関連用語

ネットワークプロトコル ..... 36 IPアドレス ..... 50



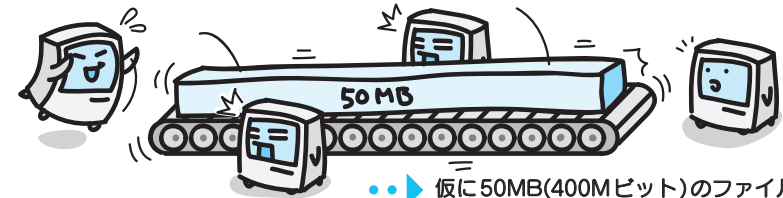
パケットとは、コンピュータ通信において通信データを小さく分割したひとかたまりのことです。小包(packet)という意味からこう呼びます。

通信路上を1秒間に流せるデータ量は、ネットワークの規格ごとに決まっています。



100BASE-TXなら、1秒間に流せるのは100Mビットまで

そのため大きなデータをそのまま流してしまうと、それ以外のコンピュータはその間一切通信が行えません。



仮に50MB(400Mビット)のファイルだと、約4秒間回線が占有される

これを避けるために、データを小さなパケットに小分けして流し、通信路を共有できるようにしているのです。

